

備前中だより

備前中学校通信
平成19年5月28日
No.1

子供に見せる親の姿

校長 土山 球一

毎朝の登校時、朝の読書、朝の会、1時間目にはいる前と生徒の様々な姿が見られます。生徒たちは「いくつものストレスを抱えて過ごしているのだな」とその姿からよく感じられることがあります。しかし、毎日接していても、ストレスの内容や心にどのくらい負担を感じているかはなかなか分かりません。

私自身のことを思い起こしてみると、中学生時代のストレスをなかなか思い起こすことができません。ただ、自分の進路については大きな負担を感じていたことは確かです。

親として、中学生の時期は子供にどのように接していくかととても難しい時期です。親は、「子供に親としてできるだけのことをしてあげよう」「無駄な道を歩かせてはいけない」と思うものです。そこで親からは、「中間考査の勉強をしたの」「自分の机のまわりくらい掃除しなさい」「塾ではどうしているの」とうるさくせつついてしまいがちです。これも子供のためと思えばこそ、とやっているわけです。

そういう場合、子供の反応は、あまり芳しいものではありません。聞いているのか聞いていないのかわからない、身体はそこにあっても心は別の所をさまよっているような態度を見せます。心を閉ざしている状態です。そこを何とか心を少しずつ開かせ、子供に影響を与えるのが親の役割です。子供が豊かに育ち、何が正しくて、立派で、大切なものなのかという「よい価値観」をもたせるためには、子供に無視され、反発されていい影響は与えられません。

私的なことを少しお話ししますが、5月24日に81歳になる母親を病院に連れて行きました。今年の2月から調子を崩し病院にはかかっていたのですが、本人の前で、胃上部の高分化型腺ガンであることを告げられました。

戦時中で、田舎に育っていましたので高等教育も受けていませんが、今回の告知にも、動揺することなく静かに医師の話を聞いていた姿に教えられた気持ちがしました。

親から受けた影響は、子供の心に刻み込まれ、いずれ大人になり人生を左右する決断に迫られたとき、浮かび上がってくるものと思います。この年になっても、親はいつまでも親という言葉に噛みしめ、子供は親の言葉より親の姿に大きく影響を受けるものということを感じました。

健闘 おめでとう

朝の部活動は備前中が誇れるものの1つです。朝早くから、ランニングをしたり、グラウンド整備をしたり、挨拶を交わしたりと、とてもさわやかな光景です。その部活動のなかから今回3つの部が表彰されました。他の部も励みとして一層精進してください。

岡山県内の強豪校35校と近県の9校が技をきそう岡山桃太郎カップソフトテニス大会と、広島県を中心に四国や鳥取・岡山県の強豪33校が集まる福山市議長杯中学生ソフトテニス大会で、備前中学校が男子団体戦で見事2位に入賞しました。

写真は右から2E 川西健司君、3D 野崎玲央奈君、3D 行司芳崇君、3C 楠奥太貴君、3A 森陽平君、2A 大饗健太郎君です。



また、2A 大饗健太郎君と2E 鈴木皓貴君のペアは、伝統ある第11回国引き招待ソフトテニス選手権大会(島根県)Bクラストーナメントで、強豪74チームを勝ち抜き、優勝しました。おめでとうございます。



バレー部女子は4月29日備前市民体育館で行われた備前市バレーボール大会で2位に輝きました。写真は左から2A 安井彩乃さん、3C 入江菜美子さん、3E 西村有加さん、3A 山本愛子さん、3C 土方公美子さん、3E 柴田悠さんです。



女子テニス部も井口杯(兵庫県)で優勝し、4月29日に福山テニスセンターで行われた福山市議長中学生ソフトテニス大会では3位、桃太郎カップでも3位を獲得しました。写真は左前から右に2B 小林綺梨花さん、3D 大饗郁実さん、2C 中村美乃梨さん、3D 村松友美子さん、後列左から、2D 守時華さん、2E 藤原瑞希さん、2C 杉原佑佳さん、2B 岸原唯さん、3D 内山萌さん、3A 櫻井あゆみさんです。